

特定非営利活動法人

# 八王子市民活動協議会

平成23年度 総 会

【 議 案 書 】



©NPO Japan Copyright Association

平成23年5月21日(土)

14時 00 分～16時 00 分

東京都八王子労政会館 第1会議室

特定非営利活動法人 八王子市民活動協議会

平成23年度総会

日時：平成23年5月21日（土） 14：00～16：00

場所：東京都八王子労政会館 第1会議室

議事進行

1. 挨拶： 特定非営利活動法人八王子市民活動協議会

理事長 石井利一

2. 議長・書記の選出

3. 審議事項

第1号議案 平成22年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案 平成23年度事業計画及び収支予算の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

以上

# 第1号議案 平成22年度事業報告及び収支決算の件

## I. 平成22年度事業報告（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

### 主要事業について

平成22年度は八王子市市民活動支援センターの指定管理者として5年契約の最後の年度でした。平成18年度に指定管理者として指定されて以来、無事にその任務を果たしてまいりましたが、その実績をベースに平成22年8月30日、「八王子市地域コミュニティ施設等指定管理者選定委員会による指定管理期間が満了する指定管理者の評価」を受けるべく過去5年間の実績報告を行ないました。報告に当たっては、一般市民、市民団体、行政関係者の支援・協力を得て各方面での活発な事業展開をしてきたこと、その結果、指定管理者業務に係わる八王子市モニタリング調査で総合評価「A」を3年連続で受けたこと等を報告し、指定管理者に対する評価として「優良な団体」として認められました。

この評価をベースに平成23年度から10ヵ年にわたる期間の長期計画を策定し次期指定管理者の申請を行ないました。10月7日、八王子市役所において申請に基づく事業計画プレゼンテーションを行ないました。

その骨子は次の通りです。

（支援センターの管理運営に関する基本方針）

基本は八王子を中心にした市民活動の活性化支援であり、下記方針で活動します。

- (1) 市民活動を希望する市民への親和性とスムーズなパイプの強化を図ります。
- (2) 市民活動団体との連携ネットワークの強化（市民活動団体の綿密な把握とデータベースの収集、更新維持）を図ります。
- (3) 市民活動活性化のための具体策実施（教育・啓蒙・PR等）を行ないます。
- (4) 活動の公開と個人情報保護対策の実施を行ないます。
- (5) 支援センタースタッフの教育・人材育成を行ないます。
- (6) 業務の改善、効率化の推進を行ないます。
- (7) 地域社会（地縁型組織・学校・企業等）との関係構築を図ります。

上記方針に基づいて、各項目について具体的長期計画を作成しプレゼンテーションを行なった結果、12月の八王子市議会での審議を経て、最終的に12月に八王子市長から平成23年度が始まる10ヵ年について八王子市民活動協議会が八王子市市民活動支援センターの指定管理者としての指定を受けることとなりました。

一方、八王子市民活動協議会の独自事業としては、八王子の市民活動活性化を図るべく、各部がそれぞれ独自の事業活動をしてきました。継続事業としての、いちよう祭りでの「わくわく広場」の活動、地縁組織や市民団体との連携の下に行なった市民フォーラム「井戸端会議」の開催、会員相互の親睦と交流を図る交流会「新春の集い」、国立東京高専の「サイエンスフェスタ」への協力参加、記念すべき第10回を迎えた「お父さんお帰りなさいパーティー」（略称：オトパ）の開催等がありました。このオトパでは昨年、実験的に採用したツアーガイド方式を更に発展させて参加者の好評を得ました。

また、22年度は政策研究部を中心に進めてきた地域ファンド（「ゆめおりファンド」）の本格的な立ち上がりに伴い、その具体的な業務運営を支援センターへ移管し日常的業務として運営することとしました。政策研究部は支援センター指定管理期間10年に呼応する協議会の10ヵ年計画の策定に取り組み、当面の施策として長期（10ヵ年）構想を作成しました。協議会としては、この構想をベースに次年度以降の計画策定に望みます。

\*別紙（6）「八王子市民活動協議会 長期（10ヵ年）構想」参照。

特筆すべきは、今年度初めての企画として取り組んだ「NPO 八王子会議」の開催です。これ

は八王子市の NPO 団体が 200 団体を超えるまでになったのを機に、オール八王子の市民団体に参加を呼びかけ、更なる市民活動の発展を期すべく各方面の権威者を講師として招き市民活動勉強会を開催し、併せて、参加者による懇親交流会を企画したのですが参加者、参加団体から大きな評価を戴きました。

期末にあたり、本年 3 月 11 日に起きた東北地方太平洋沖地震に関しては誠に心痛む災害で、被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を望みますが、八王子市が呼びかけた義援金の募金取り組みに全面的に協力すべく、支援センターでの日常的募金活動の展開、3 月開催のオトパでの参加者や、「協議会だより」を通じての会員やその他団体への呼びかけ等を行ないました。また、協議会独自でも 4 月理事会の決議により八王子市を通じて義援金を寄付いたしました。

## [1] 支援センター活動

### 1. 企画運営会議の開催

四半期毎に開催しています。会議内容は支援センター活動報告並びに業務運営に関する協議や意見交換等を行ない、相互の連携協力を図りました。

<評価と課題>

理事会等で日常的報告はしているが、四半期毎に行なう企画運営会議は両者の関係強化のためにも必要であり、長期的課題等を中心に討議してきました。

### 2. 個人情報セキュリティ委員会の開催

平成 23 年 4 月 12 日、個人情報保護管理規程に基づき、平成 22 年度の監査が監査責任者により行われました。その後、総合評価と課題についての「監査報告書」を受理しました。監査報告書の総合評価は大変良好との評価を頂きましたが、管理マニュアル整備の改善指導を受けましたので、その後、委員会を開催してセキュリティ管理マニュアルを改訂しました。

<評価と課題>

平成 22 年度の「監査報告」では、適切に管理運営がなされており問題がないとの評価を得ました。前年度指摘事項の管理マニュアルは新たに制定し早期改善処置を図りました。

### 3. 八王子市環境マネジメント制度の実施

平成 23 年 1 月 20 日、支援センターで八王子市環境監査委員による聞き取り調査と現場チェックが行なわれました。

現場監査結果として会議室の温度設定、給湯室設置ごみの分別仕分け状況や使用済み用紙の資源再生の取り組み等が適正に処理されていると評価されました。

<評価と課題>

監査結果では特に指定事項はありませんでしたが、スタッフ教育研修として「八王子市環境基本計画」概要版を教材にした学習会を行ないました。

### 4. 「指定管理者制度」のモニタリングの結果と評価

平成 22 年 8 月 4 日付けで、八王子市協働推進課より平成 21 年度の支援センター施設の管理運営に係わるモニタリングの実施結果について書面で通知がありました。

総合評価は“A”評価で、3年連続の実績になりました。モニタリングの結果は市のホームページで公表されました。

#### <評価と課題>

モニタリングの評価を受け、支援センタースタッフ一同は、改善指摘事項の共有化を図ると共に今後の諸施策や日常の業務改善に活かしました。

### 5. 調査研究活動

調査研究活動としては「平成22年度市民満足度調査報告書」、「平成22年度施設、会議室利用状況報告」、「平成22年度啓発部会アンケート調査報告書」を作成し公表致しました。

#### <評価と課題>

調査結果は市民や市民活動団体からも高い評価を頂きました。  
寄せられた、意見や要望等は今後の業務運営に反映し市民の期待に応じてまいります。

### 6. 施設利用状況（件数）

会議室	コピー機	印刷機	面談相談	来所他	電話相談	電話他	活性化室	メール相談	メール他
895	560	306	150	771	105	3,233	539	40	4,565

#### <評価と課題>

認知度の高まりとともに施設利用者は年々増加しています。特にメールでの交換が増えています。今年も、韓国政府系調査団8名、総務省人材活性化・連携交流室、石川県羽咋市、北海道芽室町職員等の視察調査がありました。センタースタッフの一層の能力向上が求められます。

### 7. 広報部会の活動

支援センターの広報紙「市民活動通信」は年6回（毎回5,000部）、奇数月の1日付で計画通り発行しました。

発行号数	発行部数	発行日	配布先
第36号	5,000部	平成22年5月1日	市の公共施設、駅広報スタンド協議会 会員、広報紙掲載団体 他市中間支援センター、八王子センター 元気、八王子町会自治会連合会、八 王子老人クラブ連合会、八王子レクリエ ーション協会、市内NPO法人、 各種イベント、窓口配布用、その他
第37号	5,000部	平成22年7月1日	
第38号	5,000部	平成22年9月1日	
第39号	5,000部	平成22年11月1日	
第40号	5,000部	平成23年1月1日	
第41号	5,000部	平成23年3月1日	

年々配布先、配布部数が増えています。

#### ・メールマガジンの発信

「支援センター便り」として、支援センター登録者でメールマガジンの希望者や中間支援施設にイベント情報や助成金情報等を毎月発信しています。今年度から新たに協議会理事にも配信するようにしました。3月末現在の配信数は273通です。

#### <評価と課題>

「市民活動通信」は、毎年度、支援センター利用者を対象に行なっているアンケート「市民満足度調査」の中でも読みやすいと好評（93%）を得ていますが、やや不満の方（7%）もいますのでさらに紙面内容等に工夫を行なっていきます。

#### ・メールマガジンの配信先は年々増加しているが、さらに配信先の拡大に努力します。

## 8. 啓発部会の活動

- (1) 「アクティブ市民塾」は従来通り月1回の計12回を計画し実施してきましたが、3月度は東北地方太平洋沖地震が1週間前に発生したので、協議の結果急遽中止しました。
- (2) 「市民活動入門講座」は多くの行政、団体が同じ企画を行なうので、昨年同様、年1回に減らしました。実施のテーマは「市民活動にぎわい座、コミュニティビジネスがまちをかえる」、参加者は65名と会場満席の盛会でした。
- (3) その代わりに「市民活動支援講座」を新設し、年3回実施しました。  
テーマは「NPO法人の会計のイ・ロ・ハ」、「自分のために始めよう！市民活動・ボランティア」、「私のチラシづくりのコツ、すべて教えます」  
結果は9団体、56名の参加で好評でした。

### <評価と課題>

今年初めての参加者が75%と4分の3を占めました。新しい分野の講座の試みが成果につながりました。

講座アンケート回答者209名の評価は「非常によい」が70%、「良い」が20%と高い評価を頂きました。来年度は10年計画の初年度です、新たな企画で取り組みます。

## 9. 情報部会の活動

ホームページの懸案事項であったイベントカレンダー、ボランティア情報、助成金情報  
の改善を関係者と調整し実行しました。

ホームページの情報発信の量、質の向上に努め、イベント情報327件、助成金情報68件  
等の実績を上げました。

一方、施設内システムの改善で業務の利便性向上に努めました。

### <評価と課題>

諸データを統合管理するシステムの検討と導入や市民活動団体の一般情報、支援センター  
のお知らせ等ホームページのさらなる充実に努めます。

## 10. ファンド部会の活動

平成22年4月度から八王子市民活動協議会よりゆめおりファンド事業（物の支援）を引き  
継ぎました。

最初の業務として頒布会（4月16日、5月28日、文房具、パソコン類）を実施しました。  
寄贈企業、団体数は4団体、提供先は14市民活動団体で大変感謝されました。

その後、寄贈団体数は延べ8企業、団体、提供先は延べ26団体に増えました。

訪問調査団体数は88件、企業数は12、ゆめおりファンド登録団体数は26件です。

### <評価と課題>

物の支援から、人、資金への営業展開、CANPAN登録の推進策、企業や市民活動団体へ  
の積極的な訪問活動（普及啓蒙活動）が必要です。

## [2] 協議会独自活動

### 1. 総務・事務局活動

#### (1) 会員の増加

平成22年度は当面の目標であった会員数200を若干伸ばすことが出来ました。特に団体及び個人の正会員数を伸ばすことが出来たことは僅かながら満足のことでした。今後はより一層の会員増加と会員活動の活発化を図る働きかけが必要であります。そのためには、各方面で活発になってきた協議会の諸々の独自活動への会員の皆さんの積極的な関与を推し進めるべく事務局体制の強化が必要です。

会員数	2011/3/31 現在
団体正会員	70
個人正会員	50
賛助会員	40
協力会員	52
合計	212名

会員数	2010/3/31 現在
団体正会員	65
個人正会員	43
賛助会員	42
協力会員	52
合計	202名

#### (2) 「国立東京高専サイエンスフェスタ」への協力

平成22年8月21日(土)、22日(日)の両日、東京高専で行なわれた主に中学生を対象にした「サイエンスフェスタ」は二日間共に晴天に恵まれ過去最高の人出(主催者発表2,300人)となりました。協議会も過去最高の7団体に参加を要請し、それぞれ参加者から順番待ちになるほどの好評を博しました。

参加団体紹介:「八王子住まい作り市民塾」「カウンセリング・まてりあ」「八王子お手玉の会」「チェロコンサート・コミュニティー」「八王子レクリエーション協会」「子ども劇場」「会員小原清さんの竹の昆虫作り」

#### (3) 会員交流会「新春の集い」について

平成23年1月22日(土)八王子労政会館において恒例の会員交流会「新春の集い」を行いました。約80名の参加者を迎え、理事長挨拶の後プロジェクターを使っての活動報告、新しく顧問に就任して頂いた法政大学の山岡教授の紹介、わくわく広場での収益金のご寄付を戴いた「城山陶遊くらぶ」や会員の小原清さんへの感謝状贈呈等がありました。また、会員団体のレクリエーション協会メンバーの南京玉すだれの演技などもあり会場は大きく盛り上がりました。

#### (4) 個人情報管理について

基本的には会員管理が中心になりますが、各種イベント参加者の情報等もあるので、体制を整備して対応を図るべく取り組んでいます。当面は事務局を中心に管理していきます。

個人情報保護管理状況の監査 :平成22年度の監査を平成23年4月12日(午後)に実施しました。監査責任者から幾つかの指摘事項がありましたが基本的には良好に管理されているとの評価をいただきました。

#### (5) 決算について

平成22年度は例年の予算に比べ、東京都や他の助成団体からのイベント依頼がなく財政的には苦しい対応を迫られました。全般的に苦しい予算の中での会員交流会、オトパの運営、NPO八王子会議の開催、備品・消耗品整備等を行なってきましたが、理事を中心とした協力体制の中で何とか黒字決算をすることが出来ました。

このような中で「協議会だより」の一部カラー化、協議会パンフレットの作成なども達成

することが出来ました。しかし実務面での経費の増大、事務局体制の拡充補強をするための財政基盤が弱いこと等今後の運営面での問題が依然として残りました。

#### <評価と課題>

協議会会員については21年度に目標にしてきた200名はクリア出来ていますが、今年度の増加人数は充分とは言えず、今後どのように増員していくか、また、会員の皆さんにどのような形で協議会活動へ参画していただけるように出来るか、特に団体会員の皆さんに、どのようなメリットを提供し享受して頂けるか等が今後の課題です。

さらに、事務局体制の強化を図るためには事務局員に対する適正な有償化と、理事の活動に対する有償化というものを検討する段階に来ていると認識しています。また、協議会としての事務所確保も必要になってきています。そのためには具体的な財政基盤の確立が必要であり、その方策の検討がこれからの大きな課題であります。

## 2. ネットワーク推進活動

### (1) 井戸端会議『弁天池』

～地域の子どもは地域で育てよう！子どもたちのふるさとづくり～

22年度の井戸端会議は横川1丁目町会、八王子市市民活動推進部協働推進課の協力を得て、10月9日横川1丁目会館で開催しました。今回の井戸端会議は市民活動団体が地域に根ざした活動の推進や地域の地縁団地と市民団体の連携を推進することを目的として、複数の子ども支援団体の新たな拠点となった地域（町会という小さな地域）での開催を計画しました。様々な立場、老若男女が参加、「子どもたちの育つ地域」として現状・今後を話し合い、次へ繋がる活動となりました。

また、21年度開催の市民フォーラム「井戸端会議—子どもと共に地域をつくる」を引き継ぎ、22年度は八王子市子ども家庭支援センター主催、八王子市民活動協議会共催で「子ども支援団体ネットワーク」を23年2月26日にクリエイトホールで開催しました。

### (2) いちょうまつり「わくわく広場」—11月20日・21日—

実行委員会を7月23日、10月1日、11月6日の3回開催し、市民団体等30団体の応募がありました。地元団体や大学生など新たな団体の参加も得られ、フードコート、体育館の催しが充実しました。特に「しあわせの黄色いハンカチ」150枚の飾り付けやレクリエーション協会のE会場と繋ぐ「スタンプラリー」の実施、長房市民センター前での揚げパンの復活もあり大いに盛り上がりました。準備は参加団体のネットワークと長房地域住民協議会の協力で短時間で済ませることができました。

### (3) 第10回「お父さんお帰りなさいパーティー」（略称：オトパ）

23年3月26日（土）、東京都労政会館で第10回の記念すべきオトパが開催されました。今回も八王子市民活動協議会と八王子市（協働推進課）・一般市民との3者構成の実行委員会で担当しました。開催直前に東北地方太平洋沖地震が発生し、開催について検討しましたが、災害時のボランティア活動等に民間の力は重要であり、ボランティアを目指す一般市民の皆さんに、そのキッカケ作りを目指すオトパは開催すべきであるとの結論で開催しました。心配した参加者の人数も例年に劣らず大勢の参加がありました。

特に昨年から実施したツアーガイドについては、友好関係にある3団体の協力で本格的導入を図り、参加者から絶大な評価を戴きました。また、今年度は初参加者を中心にフォローアップ懇談会を4月と5月の2回開催し、一緒に回ったツアーガイドの方々にも参加していただき、延べ50名程度の会合を持つことが出来、初参加者の市民活動導入の大きな後押しになったと感じています。



### <評価と課題>

ネットワーク推進部としてはいろいろな活動がありますが、秋のいちよう祭りでは、盛会の後の後片付けを限られた団体、協議会スタッフで行ったため負担感がありました。また、テントや机の調達、各団体の収益金の扱いについて今後検討する必要があります。

オトパでは、アンケート結果も全般的に好評で満足いく結果であったと評価しておりますが、今後は、更に多くの初参加者にどのように参画していただくかという例年の課題、より多くの女性の方に参画していただく方策、団塊の世代のような比較的若い層に関心を持ってもらえる企画等に取り組んでいく必要があります。

### 3. 政策研究活動

政策研究部は、この1年「地域のきずなを再生する八王子市民活動協議会」を標榜して、「地域コミュニティ再生に関する市民活動支援事業」の調査研究に取り組んでまいりました。私たちは、地域コミュニティの再生こそが市民活動の究極的な目標と考えています。6月にはその調査研究を踏まえて、協議会として取り組まなければならない支援事業を次の7つに分類して理事会に提示いたしました。

- ① 安心・安全なまちづくり（地域住民による共助活動の支援）
- ② 市民活動の拠点づくり（NPOハウスの開発・地域圏別活動拠点の開発）
- ③ 商店街空店舗、民家等の活用（地域交流拠点としての実践活動）
- ④ ゆめおりファンド（社会資源の有効活用）
- ⑤ 市民活動団体のネットワーク強化（共助・情報共有化の推進）
- ⑥ 市民活動団体人材の育成（NPOの経営・実践活動に適した人材の養成）
- ⑦ 協議会の体力強化策の検討（独立自尊する協議会の創成）

上記のうち、③、⑦については別途協議会ベースでプロジェクトチームを編成して検討が進められました。また⑤については平成23年3月に開催の第1回「NPO八王子会議」として大きな結実を生んでいます。

また、8月には協議会の将来はどうあるべきかについて問題提起を行ないました。この問題は、支援センターの指定管理者指定期間が平成32年度まで10年間延長したことに対応する「協議会10ヵ年計画」の策定に進展しました。計画は次の通り構築されています。

事業部門	第1部門	受託事業の効率的運営と拡充
	第2部門	新しい公共の理念に基づく「協働事業」の開拓
	第3部門	自主・独自事業の開発、促進
管理・組織部門	第4部門	組織体制の充実・強化

この計画は3月の理事会に「協議会 長期（10ヵ年）構想案」として提出しました。

この外、「認定NPO資格取得問題」の研究に取り組みました。第177国会に認定NPO法人の要件緩和に関する法案が提出されていますが、「ねじれ」による国会の機能不全、更には東北地方太平洋沖地震の災害復興のための審議が優先されるため市民公益税制案は先送り、または廃案となる可能性が高く、当面調査研究は中止することといたしました。

なお、政策研究部は上記種々案件の調査研究を促進させるため、平成22年度中に8回の定例部会と3回の「協議会10ヵ年計画」検討チーム打合せ会を開催いたしました。

### <評価と課題>

調査研究は日常業務と異なり、しなければいけないで済んでしまいます。政策研究担当理事たちが、10回を超える会議を開き事案に取り組んだ意欲・情熱は評価されると思います。しかし、この長期構想を具体的にどう肉付けしていくかは次年度以降の課題となりました。また、ファンドについての研究にはほとんど手をつけることができませんでした。

#### 4. NPO八王子会議の開催

平成 22 年度の特別プロジェクトとして立ち上げた「NPO 八王子会議」は、平成 23 年 2 月 19 日(土)に東京都労政会館で開催され、多くの参加者から大変好評をいただき成功裡に第 1 回を終了しました。

八王子市内の NPO 団体が 200 団体を超えるところまで来たのを機に、市内の NPO 法人並びに 法人格を持たない団体も含めて一堂に会して、NPO 法人の運営等に関するノウハウを学ぼうという趣旨の基に、全国的にも著名な講師 6 名の協力を得て開催されました。会議開催を決めてから半年以上の期間、プロジェクトメンバーの並々ならぬ努力で初めてのイベントを成功に導きました。また、実現に当たっては全理事が市内の NPO 団体を手分けして訪問し、現場の活動実態（アンケート調査等）を把握するなど協力体制を敷いて全国的にも珍しい独特の会議開催を実現することが出来ました。

当日は理事長の挨拶や八王子市副市長の祝辞で始まり、参加者目標の 150 名を大きく上回る 172 名の参加者が基調講演に参画し、また各セッションに分かれて質疑応答がされました。第 2 部の交流会も 80 名近くの参加者が集まり、名刺交換や懇親交流で花を咲かせました。読売新聞や八王子テレメディア等のマスコミからも高い関心が寄せられました。

##### <評価と課題>

NPO 八王子会議は初の試みとしては大きな成果を上げることが出来ました。しかしながら、当初計画した企業 CSR の成果発表等は、残念ながら実行委員の負担が大きくなり途中で断念せざるを得ませんでした。大きなイベントを実行するためには事前準備と十分な工数を勘案して行なう必要があり、良い勉強になったと共に次回への課題となりました。

#### 5. その他の特別プロジェクト

平成 22 年度には特別プロジェクトとして 3 つのプロジェクトを開設しました。即ち、「NPO 八王子会議」「新規事業開発」「駒木野庭園公園」の 3 つでしたが、NPO 八王子会議については上記（4）で報告のとおり初年度の任務を完了しました。

新規事業開発については、公募事業への応募等も行ないましたが成功に至らず、また、駒木野庭園公園については八王子市（公園課）への提言等を行ないましたが、その後の活動は中断していましたので、期の途中で新規事業開発プロジェクトへの統合を行ないました。

##### <評価と課題>

3 つの新規プロジェクトを立ち上げましたが、NPO 八王子会議以外は特段の成果もなく 22 年度を終わりました。与えられた課題の困難性や相手側の事情等もありますが、対応すべきスタッフ体制の問題もあります。継続する課題として 23 年度も対応してまいります。

#### 6. 広報活動

##### (1) 協議会だよりの発行（A3 両面印刷）

- ・ 「協議会だより」は、前年度同様、年 6 回偶数月の 1 日付けで、計画通りに発行しました。
- ・ 発行部数は毎回 1,000 部発行し、前年度途中から一部カラー印刷化するなどして見やすい紙面になるよう努めました。
- ・ 配布先については、協議会会員や市民センター 17 箇所への配布のほか、市内 NPO 法人や中間支援団体、八王子老人クラブ連合会などへ配布しました。

発行号数	発行日	配布先
第30号	平成22年4月1日	協議会会員、広報紙掲載団体、市民センター、支援センター関係団体、市内NPO法人八王子老人クラブ連合会、窓口配布、各種イベント等、その他
第31号	平成22年6月1日	
第32号	平成22年8月1日	
第33号	平成22年10月1日	
第34号	平成22年12月1日	
第35号	平成23年2月1日	

<評価と課題>

- ・「協議会だより」の印刷は、カラーコピー機で両面を一度に印刷することができ、比較的短時間で済むようになりました。また、カラー印刷された紙面は読者に大変喜ばれています。

## II. 平成22年度収支決算

下記別紙による。

- 別紙（1）平成22年度八王子市民活動協議会決算（収支計算書）
- 別紙（2）平成22年度八王子市市民活動支援センター決算（収支計算書）
- 別紙（3）平成22年度八王子市民活動協議会決算（貸借対照表）  
平成22年度八王子市市民活動支援センター決算（貸借対照表）

## III. 平成22年度監査報告

- 別紙（4）平成22年度八王子市民活動協議会監査報告書（当日配布）による。

## IV. その他付属資料

- 別紙（5）八王子市民活動協議会 長期（10ヵ年）構想

## 第2号議案 平成23年度事業計画案及び収支予算案の件

### I. 平成23年度事業計画案（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

#### 基本方針

NPO 法人としては7年目に入り、支援センターの指定管理者としても画期的な10年契約の初年度に当たる平成23年度は協議会にとって極めて重要な年度になります。

支援センターについては、新たなスタート台に立った飛躍の年度とも言うべき平成23年度は市民や市民活動団体への窓口として従来以上にサービスの向上と一層のPRを図り、その存在を広く知って頂くよう努力してまいります。知名度は上がりつつあるものの、現状を直視すると人口55万人都市の八王子にあっては浸透度は未だしの感じを持たざるを得ません。広報紙「市民活動通信」、ホームページ、メールマガジン等により更に一層のPR効果を発揮すべく努め、参加者が増えつつある啓発活動の更なる発展、市民団体情報の幅広い把握と情報提供、ゆめおりファンドの充実と日本財団が運営するCANPANシステムの積極的活用への努力等を行なって名実共に充実した支援センターへと発展させて参ります。

協議会独自の活動については、平成23年度から始まる市民活動支援センターの10ヵ年計画に呼応する形で協議会としても長期的な活動目標を定めるべく政策研究部会を中心に検討を重ねてきた協議会の長期（10ヵ年）構想が作成されました（別紙6参照）。10年後を見据えて、こう在りたいという期待像を描いたものですが、少しでも、その完成型へ近づけるべく努力してまいりたいと考えます。それには、まず、理事全員がいろいろな課題に対して弾力的に取り組む体制を築くと共に、理事以外の会員の協議会活動への積極的参加を促してまいりたいと考えます。前年度は理事全員によるプロジェクト体制を取り入れましたが、今年度はこうした動きをより積極的に取り進めるべく恒常的な部会活動とすることを考えます。また、昨年度の「NPO八王子会議」の推進に当たって理事全員による市内NPO団体巡りを実施した結果、種々反省すべき点、検討すべき点が発見されたので、これら団体情報の点検も重要課題として取り上げ、その改善を図りたいので、こちらも恒常的な活動項目として部会活動化することを考えます。

会員の増加、会員団体相互の連携等は継続的事業として努力してゆきますが、会員の協議会活動への参画促進は大きな課題であり事務局を中心に検討し、一歩でも前進を図るべく努力します。

市民の代表である市議会議員との交流も各種イベントを通じて進めていきたいと思えます。更に地縁組織である町会自治会活動との連携も引き続き模索してゆきますが、具体的事例を積み重ねる中で、逐次地域全体の市民活動の活性化に広げていくように、より一層努めてまいります。

#### 【1】支援センター活動

“つなぐ、ささえる、みんなの想い”

～市民協働のまちづくりを担う～

八王子市市民活動支援センターの管理運営は、今年度から10年間、引き続き指定管理者として八王子市市民活動協議会が担うことになりました。支援センタースタッフ一同にとっては、新たな門出の年を迎えます。

新年度は、公設民営の中間支援組織としての特徴と実績を活かし、下記重点施策に取り組んでまいります。

市民活動の“コンビニ機能拠点”として、相談業務の充実、コーディネート機能の発揮、普及啓発活動、情報収集と提供（特に活動資金のサポート）等の一層の充実を図ります。

- ① 市民活動団体等との関係構築のため、現場重視の活動に努めます。
- ② 地域資源マッチングシステムである「ゆめおりファンド」（物、人、資金の支援）を活用し、市民、市民活動団体、企業との相互連携や地域資源の有効活用に努めます。
- ④ 支援センターの利便性と利用者満足度の向上を図ります。
- ⑤ 業務の改善と効率的運営で経費の節減に努めます。
- ⑥ 支援センタースタッフの教育研修の充実と人材育成に努めます。

## 1. 企画運営会議

支援センターは、八王子市民活動協議会と、センター事業の施策運営等の協議や情報交換の場として、四半期毎に1回、会議を開催します。

## 2. 個人情報セキュリティ委員会

支援センター「個人情報保護基本規程」にもとづき、委員会を年2回開催致します。年1回の外部監査の評価と改善策や委員会委員を対象にした教育研修会を開催して、法令及び規範遵守を徹底致します。

## 3. 八王子市環境マネジメントシステム

年1回の外部監査指導に適切に対応して、職場環境の改善に努めます。また、環境教育研修会の開催や環境推進責任者（副センター長）、環境推進委員を中心に、日常の職場内環境の維持と啓発に努めます。

## 4. 相談業務と人材育成

相談内容の高度化、多様化で相談技術、専門知識、情報処理能力、人脈ネット等の向上策が求められます。

外部研修、現場体験、職場内OJT等での教育研修、外部人的ネットワークの活用や関連図書、調査資料、諸データを整備して相談対応力と人材教育に役立てます。専門相談は提携の外部組織（税制、司法、労務等）に委ねます。

## 5. 調査研究事業

利用者の期待と信頼に応えるため、毎月開催の諸講座（アクティブ市民塾等）の「アンケート調査」や年1回実施の「施設・会議室利用状況報告」、「市民満足度調査報告」等の調査結果を集計、分析し公表します。

調査結果は、経営改善指標として捉へ、業務改善とサービスの質的向上に努めます。

## 6. 施設運用管理

施設管理や窓口の顧客対応力の向上で、多くの利用者の利便性の向上を図ります。

## 7. 施設の安全、危機管理体制

当センターが入居しているビル管理会社の管理指導のもと、消防法に定められた自衛消防訓練参加や防火上必要な教育研修等に参加し、体験訓練学習に取り組み日常業務に活かします。

## 8. 自己評価（マネジメントサイクル）の取り組み

モニタリング事業評価シートにもとづき、年度中に評価項目を担当者と一緒に達成状況を把握検証して、達成度を高めます。

## 9. 啓発部計画

・啓発部の定義・活動内容・頻度・対象は次の通りです。

講座名	目的・内容	頻度/年	対象
1.「アクティブ市民塾」	市民活動団体の活動紹介	1 2回	全ての市民と団体
2.「市民活動実践講座」	レベルアップ	1回	同上
3.「市民活動支援講座」 21年新設	市民活動団体間の交流や レベルアップ等々	3回	指定した市民活動団体のみ

### ①「アクティブ市民塾」

広い分野で活発に活動している、市民活動団体の紹介と市民との交流の場として、例年同様、毎月1回・原則第3土曜日を中心に開催します。

### ②「市民活動実践講座」

最近、市や多くの団体が類似の講演を実施しているので、今年も昨年同様に1回だけ計画します。新しい市民事業として期待されている「ソーシャルビジネス」等をテーマに、この道の第一人者を講師に招き実施します。

### ③「市民活動支援講座」

「入門講座」を減らした分、一昨年から開始した講座で、今年度は八王子市では唯一当支援センターのみが可能な多業種の市民団体の交流会を目指します。

・市民活動団体から要望が多い団体会員を対象とした実務講座「スライド：Power Pointの作り方」。

・各種団体が参考になる共同での「外部の施設見学」等を計画し実施します。

「Power Point」などの支援講座は必要に応じて、ワンコイン（500円）程度の金額徴収を考えています。

### ④「アクティブ市民塾100回記念誌の発行」

・アクティブ市民塾の開催回数が期中で100回を迎えるので記念誌を発行します。

## 10. 広報部計画

### (1) 広報紙「市民活動通信」の発行

「市民活動通信」は前年度同様年6回奇数月の1日に、毎回5,000部発行します。

主な掲載内容は、アンケート結果（市民満足度調査結果）や市民活動団体の活動状況、「市民企画事業補助金交付事業」の紹介、「支援センターからのお知らせ」欄では、アクティブ市民塾や実践講座、その他のイベント情報やお知らせ情報、その他、市民活動団体のイベント情報やボランティア募集情報などを掲載します。

限られた紙面をできるだけ有効に活かし、「市民活動」の情報提供の媒体紙として、できるだけ多くの市民団体のイベント情報なども紙面に取り上げ、市民が積極的に市民活動にかかわれる情報提供に努めます。

### (2) メールマガジンの配信

毎月電子媒体を通して「八王子市市民活動支援センター便り」として、中間支援組織及びセ

ンター利用登録団体やイベント参加者のうちメール情報希望者等に出来るだけ配信します。掲載内容は、主にアクティブ市民塾、市民活動実践講座などのセンター主催のイベント情報やお知らせ事項（支援センターからのお願い・市民活動ワンポイント情報）などのほか、助成金情報や協議会のイベント情報、八王子市（協働推進課）のイベント情報（八王子市外で行われる市民活動に関するイベント）等を掲載します。

(3) 支援センターの新しいパンフレットを作成します。

## 1 1. ファンド部計画

平成21年度より八王子市民活動協議会での準備期間を経て、平成22年度より支援センターの事業として位置づけ本格的に活動を開始しました。

平成23年度も引き続き、経営資源（物、人、資金の支援）の潜在的提供者である企業、団体、大学、市民等を対象に、積極的に開拓をするため、協議会の協力を得ながら組織的に活動します。

・今年度は下記の重点施策に取り組んで参ります。

- ① 物の支援拡大の継続
- ② 団体／企業訪問による普及啓発
- ③ CANPAN登録の充実（★★★…3つ星化）
- ④ ポータルサイトの充実と活用
- ⑤ 頒布会の開催（2回年 目標）

## 1 2. 情報部計画

### (1) 情報開発と維持管理

センター利用登録済約200団体のデジタルデータ化が一段落しました。さらにグリーンファイル収録約400団体のデジタルデータ化を進めるとともに、デジタルデータ「お父さんお帰りなさいパーティー」冊子収録約130団体を含め、情報を統合管理するシステムを検討し、導入準備します。これらの情報もホームページで運用し、市民活動に関する八王子で一番の情報センターを目指します。

### (2) ホームページの運用管理

昨年度は、イベント情報、ボランティア情報、助成金情報にアクセスしやすくなるような改善を実施致しました。今年度はさらに市民活動団体の特記情報、一般情報も積極的に取り込むと共に、支援センターとしての情報も積極的に発信していきたいと考えております。

## [2] 協議会独自活動

### 1. 総務・事務局活動

#### (1) 会員活動の充実及び事務局体制の増強

会員の増加は永遠の課題でもありますが、同時に会員になって頂いた会員の皆さんに協議会活動へ参画していただくための方策を考えねばなりません。そのためにもこうした日常的業務を着実に実行してゆく事務局体制の整備は喫緊の急務と言わねばなりません。今年は少しでも、そうした役割を果たすべく理事を中心にした事務局体制の充実を図ります。

合わせて、協議会事務所問題にも取り組んでまいりたいと思っておりますが、財政的な問題もあり、慎重に対応します。

(2) 国立高専の「サイエンスフェスタ」への協力

例年、夏休みの期間に行なわれる東京高専のサイエンスフェスタには今年も協力いたします。小中校生を主たる対象にしていますので、子ども関連の会員団体に協力を呼びかけ、子供達に科学への目覚めとか伝統文化の継承とかにつながるような意識高揚につなげてゆきたいと考えます。具体的には高専サイドからの要請を見て対応いたします。

(3) 会員交流会「新春の集い」の継続実施

会員交流会「新春の集い」は今年も開催します。

中間支援組織としての協議会の特徴は、あらゆる分野の団体に参加を呼びかけられると共に、会員団体も多分野に亘っているところにあります。同一分野の団体との交流も意義ありますが、異分野交流からの相乗効果的な提携が生まれる可能性も大きく、単なる懇親の場ではなく、ユニークな交流の場として多くの団体へ呼びかけてゆきたいと願っています。

また、新春ということもあり、楽しい交流の場として、懇親会的な盛り上がりも必要ですので、そうした面での工夫もして、個人会員も含めて、気軽に参加できる雰囲気作りをしていきたいと思えます。

(4) 個人情報保護について

個人情報保護に関しては、従来どおり会員管理を中心に細心の注意を払って管理してゆきますが、規程やシステムの整備も行い、積極的にこれらを会員団体や一般の市民活動団体へ公開してゆきたいと願っています。

個人情報保護の対象となる文書やデータの取り扱いには事務局スタッフを中心に管理すると共に、これらスタッフの個人情報保護に関する教育も行なっています。

(5) 予算について

23年度予算は支援センター予算と協議会独自予算は実質的に区分して執行いたします。独自予算については新規事業の開発による収益拡大を目指します。また、協議会会費のあり方についても再検討すべき時期に来ていると考え、理事会での検討を行ないたいと考えています。

## 2. ネットワーク推進活動

(1) 「井戸端会議」の開催

市民活動団体が地域に根ざした活動を推進して行く事、更に、地域の地縁団体と連携（ネットワーク）して活動を推進して行く事により活動の幅を広げていけることを目指して「井戸端会議」の開催を継続していきます。

\*八王子市子ども家庭支援センター主催の「子ども支援団体ネットワーク」とは昨年に引き続き共催団体として協力していきます。

(2) いちょう祭り「わくわく広場」の担当継続

23年11月開催の「八王子いちょうまつり」においては「わくわく広場」を担当し、参加団体のネットワークの充実を図るために今年度も実行委員会を構成して参画いたします。実行委員長は参加団体から選出し、事務局機能をネットワーク推進部が担うようにします。地元の地域住民協議会との協調を図り、昨年取り入れた「黄色いハンカチ」の更なる発展を期して広場全体の盛り上がりを計画いたします。また、各団体の収益金についても広い意味での社会貢献につながるような方法を参加団体と共に考えて実施に結びつけていきたいと考えます。

(3) 「お父さんお帰りなさいパーティー」（略称：オトパ）の開催

今年で第11回目となるオトパは、協議会・八王子市（協働推進課）・一般市民の3者構成による実行委員会方式を継続して開催いたします。昨年度のツアーガイドによる好評を受けて



更なる発展を期すべく、実行委員会において検討してまいります。10年を経過した節目の年度でもあり、対象を積極的に女性の方にも広げ、団塊世代の方にも共鳴して頂けるような企画を盛り込むべく努力してまいります。シニア世代の増加は必然的方向であり、男女を問わず、こうした方々に地元の市民活動に参画していただくキッカケ作りを提供するオトパは益々その必要性が高まっていますので、友誼団体との連携を密にして協力して盛り上げていきたいと考えます。

### 3. 政策研究活動

平成22年度に取り組みました「協議会 長期（10ヵ年）構想」と「認定NPO資格取得問題」の2つは前年度末に一応の区切りを迎えています。この2つの事案については次のように考えています。

#### (1) 協議会 長期（10ヵ年）構想

平成23年度は、この構想にある4部門から喫緊の事案等を中期または短期、たとえば5年計画として、より具体的に構築していく必要があります。ただ、平成22年度に引き続いて当部が担当するのか、あるいは「協議会 長期（10ヵ年）構想」で提案されているNPO経営サポート情報部(仮称)や事業開拓研究推進部(仮称)が本年度創設される場合には、担当分野についての調整を図る必要があります。

#### (2) 認定NPO資格取得問題

今国会に提出された市民公益税制案は、当面先送りまたは廃案となる可能性が高いと思われませんが、いずれ近い将来立法化されるものと思料しております。当部では、これからも国会の動向等を注意深く見守りながら、認定NPO資格取得問題等の研究に取り組んでいきたいと考えております。

上記2事案の他に、ゆめおりファンデ等の事案の調査・研究に取り組んでまいります。

#### (3) ゆめおりファンドの充実・拡大

物の支援については、協議会から引き継いで支援センターの1業務として制度化され、すでに2年が経過しています。政策研究部では、人・資金支援のシステム化を目指して更なるファンド業務の充実・拡大への研究開発に取り組めます。このため八王子市に市民活動推進部協働推進課長を会長とするファンド研究会の開催を呼びかけたいと考えています。

#### (4) 八王子市市民会議が策定する市民活動分野の諸施策等に呼応して、協議会が対応を必要とする事案の調査研究・施策の提言に取り組めます。

#### (5) また、理事長または理事会の特命事項についての調査研究に取り組めます。

上記の通り、政策研究部の事業計画について提案いたします。当部は、僚部と共同して協議会が持つ有限な経営資源を考慮しつつ、協議会の一層の発展のために調査研究課題に取り組んでまいりたいと希求しております。

### 4. NPO八王子会議の開催

昨年度開催の第1回「NPO八王子会議」は関係者の協力で大きな成功を収めました。

法人格を持ったNPO団体が200を越す八王子には、異分野団体を横つなぎしてゆくこのような会議の存在は必要であり、その充実強化は多くの団体の望むところであると考えます。

従って、協議会は今年度、第2回の「NPO八王子会議」を開催することにして、以後継続的な開催を計画します。第2回の八王子会議をどのような形で推進するかは理事会でよく検討して計画いたします。協議会理事と支援センタースタッフの合同実行委員会方式での推進も有力な案として検討いたします。

## 5. 新規事業

平成 22 年度に行なった新規事業について、23 年度では次のように考えます。

- ・新規事業開発については政策研究部の検討による二つの恒常的な部会創設案を考慮しながら、早急に理事会での検討と決定を図って推進してゆきます。
- ・事業開拓研究推進部（仮称）に駒木野庭園公園も含めた新規事業開発プロジェクトを盛り込む方向で進める案を考えています。
- ・NPO 八王子会議の開催に際し、理事全員の協力で行なった NPO 団体訪問から得られた教訓、すなわち、NPO 団体への経営サポートの必要性と、団体情報のタイムリー且つ正確な取得によるデーターの整理が必要です。この任務を遂行するために NPO 経営サポート情報部（仮称）の設置が考えられます。新年度の早い段階で方向付けを行ないます。

## 6. 広報活動

### (1) 協議会だよりの発行

「協議会だより」については、前年度同様、年 6 回偶数月の 1 日に毎回 1, 0 0 0 部発行します。主な掲載内容は、協議会の活動状況やイベント情報、協議会団体会員のイベント情報などを掲載します。紙面印刷のカラー化や掲載内容等を工夫するなどして、更に親しまれる広報紙として協議会活動を市民に周知していきます。

発行号数	発行予定日	配布先
第 3 6 号	平成 2 3 年 4 月 1 日	協議会会員、紙面掲載団体、支援センター関係団体、各市民センター（17 箇所）、市内 NPO 法人、老人クラブ連合会、窓口配布、各種イベント等、その他
第 3 7 号	平成 2 3 年 6 月 1 日	
第 3 8 号	平成 2 3 年 8 月 1 日	
第 3 9 号	平成 2 3 年 1 0 月 1 日	
第 4 0 号	平成 2 3 年 1 2 月 1 日	
第 4 1 号	平成 2 4 年 2 月 1 日	

### (2) ホームページの維持管理

タイムリーな情報提供と掲載内容の充実更新に努めるとともに、より見やすいホームページとして充実させていきます。

## II. 平成 23 年度収支予算（案）

下記別紙による。

別紙（6）平成 23 年度八王子市民活動協議会予算（案）

別紙（7）平成 23 年度八王子市市民活動支援センター予算（案）

## 第 3 号議案 議事録署名人選任の件

以上